

意見提出フォーマット

意見提出元	富士通株式会社
意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど）	<p>2010年末には伝送速度100Mbpsの3.9Gが導入され、また2015年以降4Gが導入され、2020年には伝送速度10Gbpsの実現が期待される。</p> <p>これらの超高速・大容量の移動通信の実現により、さらに高度なインテリジェントサービスや高臨場感通信が可能となり、移動通信の一層の利用促進が期待される。</p>
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備）	<p>周波数の確保</p> <p>携帯電話等の移動通信は今後も大容量化、高品質化に伴うトラフィックの増大が予想される。情報通信審議会 情報通信技術分科会 携帯電話等周波数有効利用方策委員会報告「第3世代移動通信システム（IMT-2000）の高度化のための技術的方策」によると、2017年に2007年の200倍に増大すると試算されており、2020年はさらに増大すると予想される。</p> <p>こうした状況に対して、新たな周波数の配分が必要であり、電波政策懇談会報告にある通り、700/900MHz帯、2.6GHz帯、3～4GHz帯を中心に、現在の500MHz幅から2020年に1.4GHz幅に拡大し、計1.9GHz幅を確保することが適当である。</p> <p>なお、700/900MHz帯については、我が国が携帯電話の周波数が逼迫している状況を考慮すると、早期に効率よく利用できることが望まれる。グローバルハーモナイゼーションは、長期的な観点で、既に割り当て済みの帯域を含め、将来的に容易に移行できる配分が可能であれば検討すべき。</p> <p>国際標準化・研究開発の推進</p> <p>電波の効率的な利用を図る技術、周波数の共用を可能とする技術、未利用の周波数帯を開拓する技術等の研究開発に継続して取り組む必要がある。</p>
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	

複数のサービスやシステムについてご回答される場合は、それぞれ別々のフォーマットに記入してください（できるだけイメージ図等を加えてください）。

意見提出フォーマット

意見提出元	富士通株式会社
意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望 (2015 年ごろや 2020 年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど)	<p>2010 年末には伝送速度 100Mbps の 3.9G が導入され、また 2020 年には伝送速度 10Gbps の 4G の実現が期待される。</p> <p>これらの超高速・大容量の移動通信の実現により、さらに高度なインテリジェントサービスや高臨場感通信が可能となり、移動通信の一層の利用促進が期待される。</p>
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題 (周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	<p>周波数の確保</p> <p>携帯電話等の移動通信は今後も大容量化、高品質化に伴うトラフィックの増大が予想される。情報通信審議会 情報通信技術分科会 携帯電話等周波数有効利用方策委員会報告「第 3 世代移動通信システム (IMT-2000) の高度化のための技術的方策」によると、2017 年に 2007 年の 200 倍に増大すると試算されており、2020 年はさらに増大すると予想される。</p> <p>こうした状況に対して、新たな周波数の配分が必要であり、電波政策懇談会報告にある通り、700/900MHz 帯、2.6GHz 帯、3~4GHz 帯を中心に、現在の 500MHz 幅から 2020 年に 1.4GHz 幅に拡大し、計 1.9GHz 幅を確保することが適当である。</p> <p>なお、4G については、WRC-07 の結果を踏まえ、配分を検討すべき。</p> <p>国際標準化・研究開発の推進</p> <p>電波の効率的な利用を図る技術、周波数の共用を可能とする技術、未利用の周波数帯を開拓する技術等の研究開発に継続して取り組む必要がある。</p>
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	

複数のサービスやシステムについてご回答される場合は、それぞれ別々のフォーマットに記入してください (できるだけイメージ図等を加えてください)。

意見提出フォーマット

意見提出元	富士通株式会社
意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望(2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど)	より安全で快適な交通社会の実現に向けて、歩行者を検知する車載や、インフラ設置における、79GHz ミリ波帯高分解能レーダーによる安全運転支援等の普及が進展することが期待される。
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題(周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	<p>周波数の確保 「ぶつからない車」等の実現に向けて、高精度な測位性能が求められるため、広帯域の周波数の確保が可能なミリ波帯(79GHz 帯)を候補とし、配分を進めることが期待される。</p> <p>国際標準化・研究開発の推進 79GHz 帯のような高い周波帯については、デバイスレベルも含めて基礎研究の段階から、研究開発を推進することが必要である。</p>
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	

複数のサービスやシステムについてご回答される場合は、それぞれ別々のフォーマットに記入してください(できるだけイメージ図等を加えてください)。